

家畜衛生だより

米国の乳牛における高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5N1 亜型) への感染事例について

高病原性鳥インフルエンザについては、世界各地で野鳥からウイルス (H5 亜型) が検出され、家畜農場での発生が確認されているほか、哺乳類への感染も散発的に報告されています。最近、米国で乳牛の高病原性インフルエンザ H5N1 亜型ウイルス感染が確認されました。

<症状>

- 反芻、ルーメン運動性の低下を伴う急激な飼料摂取量の減少
- 群単位での著しい泌乳量の減少
- 重症の牛における濃厚/退色した乳、無乳
- 抑うつ、発熱、脱水
- 糞尿の変化 (粘着便~乾燥便)



<確認事例>

- 3/25 テキサス州 7 例
- 3/26 カンザス州 3 例
- 3/29 ミシガン州 1 例
- 4/1 ニューメキシコ州 2 例
- アイダホ州 1 例
- 4/2 オハイオ州 1 例

- **渡り鳥が感染源とみられています**が、ミシガン州の事例では、牛群間での症状の拡がりから、牛から牛への感染の可能性が否定できないとされています。
- また、感染が推定される牛と接触歴のある人 1 名の感染事例 (結膜炎症状の後に回復) も報告されています。
- 現在、人を含むほ乳類への感染性を高めるウイルスの遺伝子変異等は確認されていません。



野鳥からの感染防止のために



- ★ **飼槽・給水設備・飼料の保管場所に野鳥の排泄物等が混入しない**ようにするなど、基本的な衛生管理を徹底してください。
- ★ **乳量の減少・食欲低下等がみられた場合には、当該牛を群から隔離し、獣医師・家畜保健衛生所に御相談**ください。

消毒の徹底で病原体の侵入防止！

人で流行している新型コロナウイルスについては、マスク着用などの制限が緩和され、海外からの入国者数が増加しています。

牛の伝染病発生地域からの人・物の移動が増加することが予想されますので、病原体の侵入防止のため、引き続き防疫対策の徹底をお願いします。

令和6年4月1日から BSE検査対象が変わります

ポイント

- 1 96か月齢以上の死亡牛検査が**廃止**
- 2 月齢に関係なく下記の牛のうち、
検査が必要となる牛を獣医師が判断
 - ① 起立不能等であった死亡牛
 - ② BSEを疑う症状のあった死亡牛

お願い

- 死亡牛の検案時には、
別紙のフローチャートにより
検査の要否を判断してください
- 検案結果はその根拠とともに記録を行い、
農家から死体検案書を求められた場合は、
判断結果とその根拠を漏れなく記入願います

ご不明な点がございましたら、
管轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください
【川越家畜保健衛生所】電話049(225)4141

<特定症状牛>

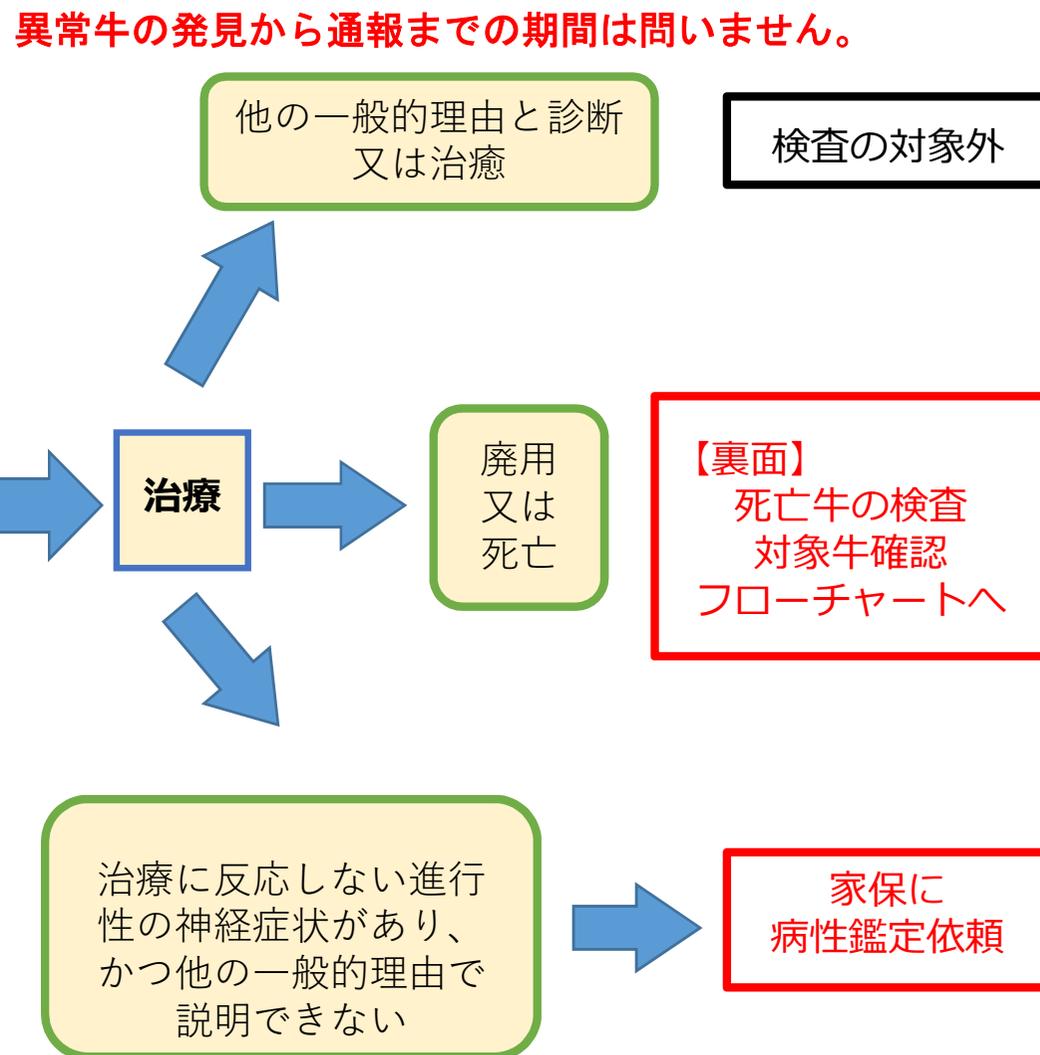
- i 興奮しやすい
- ii 音、光、接触等に対する過敏な反応
- iii 群内序列の変化
- iv 搾乳時の持続的な蹴り
- v 頭を低くし、柵等に押しつける動作の繰り返し
- vi 扉、柵等の障害物におけるためらい

<起立不能牛>

- ・ 歩行困難
- ・ 起立不能
- ・ 異常姿勢（犬座姿勢）
- ・ 異常歩様（特に後肢運動失調）
- ・ 頭を低くする
- ・ 障害物回避困難

かつ

他の一般的な理由（感染症、代謝性、外傷性、腫瘍性又は毒性の原因）で説明できないもの



死亡牛のBSE検査対象牛確認フローチャート（令和6年4月～）

特定症状があった牛ですか？

【特定症状】

- i 興奮しやすい
- ii 音・光・接触に対する過敏な反応
- iii 群内序列の変化
- iv 搾乳時の持続的な蹴り
- v 頭を低くし柵等に押しつける動作の繰り返し
- vi 扉・柵等の障害物回避困難

はい

① BSE 検査対象

いいえ

以下の疾患を疑った牛ですか？

【7疾患】

- ・ヒストフィルス・ソムニ感染症
- ・リステリア症
- ・大脳皮質壊死症
- ・脳炎
- ・脳脊髄炎
- ・髄膜炎
- ・全身に異常が見られる
中枢神経麻痺又は
中枢神経系腫瘍

はい

② BSE 検査対象

いいえ

歩行困難、起立不能を呈していましたか？

はい

以下の疾患を疑った牛ですか？

【8疾患】

- ・低カルシウム血症
- ・マグネシウム欠乏症
- ・乳熱
- ・末梢神経系腫瘍
- ・閉鎖神経麻痺
- ・大腿神経麻痺
- ・坐骨神経麻痺
- ・その他末梢神経麻痺の症状を呈し
感染症を疑わない牛

はい

臨床検査のみで診断しましたか？

はい

③ BSE 検査対象

いいえ

感染症、代謝性、
外傷性、腫瘍性、
毒性の原因で説明
できる場合は
検査対象外

いいえ

下記の症状が
進行性に認められて
いましたか？

【BSE関連症状】

- ・沈鬱
- ・緊張
- ・目・耳の左右非対称
かつ過剰な動き
- ・流涎の増加
- ・鼻を舐める動作の増加
- ・歯ぎしり
- ・振戦
- ・過剰な発声
- ・パニック反応
- ・過剰な警戒

はい

④ BSE 検査対象

生化学検査や病理学的検査等により
確定診断した場合は
検査対象外